

会派広報聴活動報告書(研修等)

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和2年1月22日 提出

1. 活動概要

会派名	公明党
会員名	山田和明、横山悦子
活動項目	国土交通省及び厚生労働省との意見交換 NTTDコム本社において5Gの今後についての研修

2. 活動内容

摘要	<p>令和2年1月16日 衆議院第2議員会館 国土交通省</p> <ol style="list-style-type: none">1 防災調整池、遊水地整備について2 国土交通省による排水路整備、排水機場整備について3 河道掘削の予算について4 スーパー堤防整備予算確保について <p>「社会資本整備審議会河川部会」 気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会(第1回)資料により説明</p> <ol style="list-style-type: none">1 気候変動の今後の予測、社会動向について2 台風19号被害について説明3 対応すべき課題について <p>河道掘削・河床木の工事が最優先の認識 単にハードの整備では、時間がかかりすぎて現状の対応が間に合わない。 今ある施設の有効利用(ダムの利用)農地の活用、遊水地の活用策を検討中</p> <p>質疑・応答 質問 大和町の現状で、遊水地整備を進めるとあるが、今回の整備によって軽減される割合は 回答 遊水地の整備、吉田川の稼働掘削については、大規模な掘削になる。結果今回の雨量に十分に対応できる 遊水地の拡大については、拡大・新ダムに建設について、議論が必要</p> <p>質問 ダムの事前放流は可能か 回答 ダムの構造的に人工的に放流する機能がない。今後今の施設では不可能なので、施設の改良が必要。 遊水地については、国土交通省のみでは困難、農水省と協議が必要。排水機場の再稼働と水門の閉鎖について、今後連携の検討が必要</p> <p>質問 吉田川の稼働掘削の必要、対応に 回答 地域の要望も出されている。吉田川の水位を下げる場合、稼働掘削する場合の土の利用を考え、土盛りに使う方法もあるのでは。地域の要望をまとめる必要</p> <p>質問 健管轄のダムの有効利用は 回答 県に要望してほしい。国から補助の検討を図る</p>
----	--

令和2年1月16日 衆議院第2議員会館

厚生労働省

田川地域医療専門官

地域医療施設の構想の推進について

1 日本人口ピラミッドの変化

2016年、2025年、2065年 人口構造の変化について

2 地域医療体制の構造について

医療施設の最適配置

医師、医療従事者の働き方改革

実効性のある医師偏在対策

3 病床機能ごとの病床数の推移

2015年度病床機能報告

地域医療を守るために 検証は必要

質問

在宅医療体制をどう考える

回答

在宅を行う医師が不足している。訪問看護婦等女性をしている

在宅医療のすそ野を広げていく(予算・介護)

質問

在宅医療専門病院があるが、考えは

回答

在宅医療を行っている医師。実際医師が不足している。1、交代要員がほしい

患者さんの距離が遠く、効率が悪い。地方も対応できるように支援策を考えたい

質問

2026年問題、難しい課題が山積みしている。

回答

問題を話し合って検討してほしい

国会研修の要旨

来年度予算の骨格に関する説明があり、さらなる災害復旧の必要性を確認

災害を完全防止の立場から、減災の方向へシフト、さらに各省庁連携の必要性を今後進める必要性を確認。単独省庁に限らない方策も含め検討を進める

僻地医療の確保策と医師の偏在の課題など、画一的な指針から、地方の特性を生かした施策推進を強く希望した

令和2年1月17日 NTTドコモ本社

NTTドコモ本社 5G について

山田代表より挨拶

NTT 川田氏より挨拶

NTT ショールームで体験

オンデマンド交通システム

人口推計予測(リアルタイム)2時間後のデータ予測

観光や受胎予測に活用できる

5Gを使用することで双方向学習システムを利用

会議室で意見交換

5Gを活用した2共創の提案

資料により説明

観光面に利用例(映像が主力)

- 1 ポスターなどの広報媒体から、バーチャル体験型が可能
- 2 疑似体験から参加型の意向が可能

医療の利用

- 1 遠隔地からの医療指導、アドバイス
- 2 遠隔診療などに利用

防災対策

- 1 ドローン等情報収集の方法と分析に
- 2 情報の分析と専門官とリアルタイムで対応策を関東可能

農業の利用策

- 1 ブドウなど繊細な育苗の分析に利用
- 2 生產品の映像から分析(高解像度)専門家のアドバイス
- 3 遠隔地の圃場管理に機械化を図る(センサー)利用
- 4 畜産関係はすでに実用化、センサーとスマートホンの連携

質疑応答

Q,イノシシ対応策は

A,すでに対応している。モバイルの特性を利用する

Q,5Gの利用範囲は

A,今後拡大していくが、端末については、順次発売

5Gの未来志向について議論、意見交換ができた